



加木門
639
卷 34



—
—
—

ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ
ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ

ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ
ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ	ମୁଦ୍ରା ପତ୍ର କର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ ପତ୍ରକର୍ମଚାରୀ

波之部

初。其の事は。その。や。に。と。ま。る。
事ある。時。そ。の。や。に。と。ま。る。
ありて。事。あ。ま。ま。く。お。ね。お。う。し。ま。ま。ス。ト。有。
又。定。ひ。ち。格。ふ。と。ぐ。れ。あ。い。し。の。そ。が。う。と。ハ。す。と。お。ね。が。
亥。格。と。ひ。よ。も。う。り。又。ぞ。や。に。と。か。く。が。れ。の。や。
う。う。を。モ。ハ。の。う。も。ス。う。一。う。う。き。ゆ。う。
の。ト。モ。モ。亥。の。う。格。ふ。と。ぐ。れ。も。う。と。あ。ま。や。の。う。

七

く 来 ト ナ つ 算 る ぬ ふ む ゆ ろ り き そ ま す ま し

九

古今
古今

古今
せぐちく家ぬ一せんばよきあくたる声をひきまく
爰能ふえあくもやまうべかくどもうそひあえことくわくぞ
上よそのやうのまつはりくぬト不ぬめておふ格

かけりてもよぐり

夏格 出古今 桃の花を李の花と被ふるがり而て我等よりまづれもせぬ

色あへむ。トもまづべきを格とこぐてぬ。もよく、
夏格と上品もソラジマくすはとの妙りうその多く
切をほてせきをまづるをのへ色あへる。トもよく、
まづくこと

つ

古今 古今
兄とそつんをすまもとやまとつひ六しき。ある。とまづく
上うぞのや。ゆ。まづくから時ハ。こそつる。とまづぶ
格くさんば。つ。もふ。トハつべの下のらむ。たつ。まづ
うづ。もじの。とじの。つ。トハつべの下とまづく

早ぬ

古今 古今
春の新ふる葉つまくとく。もくぢちうふ葉ふくらむとまづく
レ。早ぬ。モ。上うぞのや。ゆ。まづくから時ハ。ぬる。

まづくとまづく

夏格

下成

三二。夏の花もとぞれて秋風をうの涼少しゆけ。而りる。
よみつる。ごく。わ。と。後。冬。そ。から。时。ハ。ぬ。ト。まづ
格。まづく。め。ト。も。と。く。夏格。と。も。と。あ。ト。羽。を
渡。す。そ。と。や。く。夏格。の。す。か。の。ほ。り。く。よ。

ふ。く。り。あ。れ。と。よ。あ。り。少。か。と。あ。る。無。日。の。里。を。ひ。う。さ。ー。ま。か

年。あ。既。り。か。ず。き。と。い。の。因。長。で。行。た。の。む。あ。年。む。里。を。高。し。た。ぞ。を
む。り。か。ず。き。と。い。の。因。長。で。行。た。の。む。あ。年。む。里。を。高。し。た。ぞ。を

け。た。の。じ。ト。云。又。解。立。候。と。尔。因。は。自。化。の。差。別。

有。す。と。即。く。

□ まふを波瀾とすとふ

お。お。お。れ。ん。く。ろ。の。時。ハ。た。の。む。た。の。う。と。ま。り

人。今。い。我。お。ん。の。時。ハ。た。の。む。た。の。ち。

た。つ。も。れ。と。ま。づ。く。ト。有。

海ハ自海ヨリハ まよ え

ほの物トヨハ まよ えち まよ え

あり

後きよ

つれもあたまをやたのも秋風の音みさむきよへ席もすきよ

乞ハ や。からうとて たのもトヨイシ

古今 今一こととびや おけさくづの夜ふたりこれをたのもる

是ハの、からみて たのも。トヨイシ

後きよ

山かくはま古代の始祖毎日山（ひろさき）にて多神のひろさき

是ハの、からみて そふトヨイシ

後きよ こゝノもやわの月をそうそふ秋の山かくはまにやれ

是ハの、からみて そふトヨイシ

右の格ハ 細腰をアスモベ

八十八

古今 む。毛グゆくらおもて山かくはまも是のまふくらとぞ なづねん
古今 古今 お方立て居をあくぐるくと是の山一たの私を知るるぬりん
古今 あれとく日もさはと鳥落の處ふゑはあくとも鳴をそりし
古今 きむ。つまみゑゑとくへきんせがアサヤふくみの里乃あれまくもを
モケホヤ、やハ あがひるや。スあれまく、まくハ
あがももをくへ おく、ノ反しむ。スアヘフのう

古今 まきてばきゆうゆのめりあくまみみがくろくこれみどけテクレ
是ハ福ふとおもて 朝あはふ まて おふとの おのの
上ばかりハ ちと後。のとぞのや。あづの辞をあく

例ふート有

古今 小金山のひのひと山かくはまのみかむすこ
是あハの、からうやハあく

八

毛グ
む。

ゑむ。古今たのちうてこのを今むべとおれがそればあだまへる
ゆ。おき山ざとの森底ハ底へりくれどかきの舟をもとをやせん

いふゆゆ。あどゆトヨモト、よまひつこと
上がかりハ。と。そ。徒のトノロペー

る。後秋き

る。ひごろの夜の轟音で。ひしやうり。もうち響き。まくらす。

え。としやうモ。あるモ。トハつねぬ。視又上のから
も。と。徒が時ハ。と。と。と。視を。まくら。ト。視を。そ。トリ。と。で

あがる。みる。まくる。ト。も。お。櫻

る。古今月夜あむ。あぬ人まくる。かわく。り。もうち。まくら。びても。福人
は。と。まくら。ト。まくら。視を。まくら。ト。視を。そ。トリ。と。で
上。は。か。り。そ。の。や。何。まくら。時。ハ。と。まくら。視。ハ

り。もうち。聲。と。さね。バ。上。お。く。や。か。だ。く。と。り。
り。もうち。聲。も。み。く。る。お。く。る。ト。も。う。と。上。る。の。下。を
ス。ま。の。も。う。と。ひ。や。う。上。る。け。と。お。あ。う。ハ。ま。う
の。と。徒。そ。の。や。か。年。の。む。ま。ひ。視。一。つ。ま。く。る。と。これ。と
ほ。之。船。の。ま。く。一。つ。あ。と。年。れ。バ。リ。食。く。と。此
ベ。

り。古今人。お。あ。そ。ん。つ。き。の。あ。た。み。と。ひ。あ。き。て。し。ゆ。そ。う。大。み。ん。や。け。を。り
り。古今。お。ま。今。と。の。も。う。お。神。松。う。べ。れ。て。ち。り。ゆ。お。せ。く。と。そ。う。り。せ。く
り。古今。と。か。人。を。花。の。衣。お。あ。り。な。あ。り。ま。ま。と。ろ。も。よ。か。く。と。よ。あ。せ。よ
り。古今。苗。代。の。み。く。い。井。お。す。か。せ。た。り。或。や。も。げ。あ。う。年。が。苗。代。を
り。古今。お。う。と。と。お。り。か。ー。お。ー。反。た。こ
り。古今。お。う。と。と。お。り。か。ー。お。ー。反。た。こ

りう 後撰
いせくるりー社よりあぐれどふわそれぬオトロシナリ

げら・里唐ハカモキヤ らる もれモアド

りう 後撰
体せが病の病のうけあうさまれどふうだんてそくもあづかり

けめりハクモウリ あどみうりとああトミテ
ちむ すすじトヤシルミ

りう 古今
みさむひ走きとよせま城址のうみ下を走る風ふきや

まきねりハトヨダトトモテゆる風るへ

上のわうやーやうりてりかね、こくきこ

上おかりて。後半時ハ りく

上おかりぞのや。後半時ハ るく

をちじちあるたちけりからねるトヤフハフ
みハづく格の便上のからぞのや。後半時
じまびトあくべ印うくぞのや。後半時
むそびゆハシ

一 九十

フヨウでく格の便のうみ下トヤフ トヤフハフハ
前れヒーできをもる便へ又ケリ。あり。あど
りトユ初のふもむく格の便を。後ノもそば
西ハフアもみすむか格へ又

代の機集まで。前の音を。トヨリトハ
トヨリを古ス。またトヨリトハ

やとしやうじしのう久しくござりけりを
ようちる。

けふトヨリハすくづく移す。トヨリ例へ

けふもく元すけれどふじももそとあくくもりぬづく
是へ。かくみて。りトヨリトヨリ。もーあはるは
ようくべ。上おからへ。もくおまくうかくもく
あく

○向をほてておまけば今をすとあるへ

あくまの年立てるにへようまたうあて学のこゑ
えれハ声のとへもうト後て坐ててらるもの
あれどもまよそのわうそいその声。ト句の
どうりめむようかりたり語のあをよううかり
まれく

後押 每代をじくきの夜くだま一まかきゆどーいさゆりほん

是ハ三の句は一ま、下へもう一添てすと、夜で、
とれ。手ノ山を嘗めてんねへー

物古今 聞きくぬ山下ふ下の根がよとてうかのこよだらふとそのあらうん
是ハ語のちうとせや。うつからううやドお根、下
あり。傍を坐てく

り なた集 人素とまのとくうやかねこー被てらむまきわり

きま

後押

けんつやくとゲのとく。どこの文字ハテシトシリ
の文字は人書く。ひら書きとあら字ふかはうに
神もあれぢかくわうとすとあるとの文字へ書
りそと併せくせくもとみ

きま

後押

ぬやくあ。うあせんすく。御みぢひらぬめぢうそくかく
上ねから。ぞのや。仰。多。時。ハ。うかり。ト。然。が。格。
上ねから。そく。あ。と。る。ま。き。ト。る。ま。ト。う。か。く。
も。う。べ。

きま

後押

えひてもきみあだりそくしてきく。や。筋のがくうあるく
上ねから。ぞのや。仰。多。時。ハ。ト。む。よ。ぶ。格。
古々 ゆうべかね。片。見。走。く。と。て。れ。く。く。き。み。ぐ。く。と。す。り。み。さ
上ねから。ぞのや。仰。多。時。ハ。ア。ー。ト。む。よ。ぶ。格。く

きま

後押

不。ふ。人のかく。う。ぐ。く。を。う。ざ。き。方。す。あ。す。る。花。や。け。く。ハ

上おからざのやう。多き付へざり。トむまぶ機。
アモミハとのまどるハ

カサエ五

神石

多良志比賣可尾能美許等能奈都良須等
美多志世柳斯伊志遠多禮美青魚鈎

志

詞をばは是ハ上おたれトマガス。トモシボ
ベキをだきとどらハたゞく。トハモトモ
詔めらあおハタケ御うト有

又

多良志比賣可尾能美許等能奈都良須等
美多志世柳斯伊志遠多禮美青魚鈎

志

テアリトムジテアキ一あれどもいつ。ミハレム
テアリトスズキハ。レトクタジテモ一かく。ムキ
ヘの語をアキト。ムキ格の詞をアキテ下へて

九十二

アモミ

後撰

秋方のまどるれ。モミヨリキモチ人や。あくと口で

古今有のれあくと。モレアリ。アラキドリ。マカアリ

上のからざのや。仰。多時ハ。レトキト。モモシ根
けじく。上。アラカ。アラヤ。アラカ。アラカ。アラカ。

アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。

アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。

アモミ

後撰

秋方のまどるれ。モミヨリキモチ人や。あくと口で

古今有のれあくと。モレアリ。アラキドリ。マカアリ

上のからざのや。仰。多時ハ。レトキト。モモシ根

けじく。上。アラカ。アラヤ。アラカ。アラカ。アラカ。

アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。

アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。アラカ。

上ひからう。そのや。何。多。時。ハ。べき。ト。も。ま。ぶ。様。

○。ひ。み。を。も。ま。ぐ。る。ハ

お。古今。せ。ふ。か。代。を。も。ま。か。と。ハ。て。ぐ。も。れ。う。き。い。く。ち。ほ。く。う。お。り。

是。ハ。代。う。き。い。く。と。あ。ほ。い。ト。う。か。と。あ。る。を。

オ。ハ。二。つ。望。

古。今。

ま。一。セ。の。ゆ。小。出。と。て。様。狀。あ。う。せ。バ。事。の。ん。い。の。ど。け。う。ま。一。

ら。一。六。帖。

シ。カ。ニ。

ら。一。シ。ハ。ト。子。シ。つ。る。ま。く。く。

○。上。ふ。く。る。な。ぞ。一。ぞ。の。や。仰。え。そ。ト。か。さ。あ。く。と。て。の。小。

あ。ほ。一。手。時。ハ。あ。り。た。格。の。初。す。う。と。も。ぶ。ト。ソ。ラ。ハ。

古。今。

あ。ほ。の。室。を。や。も。そ。こ。く。ま。る。お。み。の。け。と。う。を。る。

ひ。じ。と。く。ま。ね。の。ト。あ。れ。ベ。け。ま。ト。あ。つ。て。も。上。の。つ。ま。

九十三

う。て。う。ち。り。る。ト。も。ま。ぶ。例。一。や。か。う。み。そ。む。ま。ぐ。ば。
や。う。ト。リ。文。家。少。す。も。ま。よ。修。ま。れ。い。も。び。う。や。だ。の。の。
あ。り。に。落。の。羽。和。毛。ハ。く。う。た。格。の。初。す。う。と。も。ぶ。ト。ソ。ラ。ハ。
ま。る。移。の。ま。一。さ。う。と。ひ。ま。る。御。と。ま。中。ふ。を。そ。ち。ハ。
の。ハ。ま。く。れ。ど。も。ぞ。や。仰。え。そ。う。ハ。の。ハ。ま。く。一。

古。今。

喜。り。サ。の。豆。豆。み。ふ。や。ち。う。と。の。神。す。と。て。く。の。ゆ。く。
く。の。も。く。の。ゆ。く。と。あ。れ。ど。も。ら。く。上。の。や。け。も。ま。び。
ぞ。や。仰。え。ハ。ま。が。と。れ。ま。ま。そ。そ。お。ま。と。ま。と。ま。で。ハ。
の。や。と。あ。づ。る。と。ま。ま。ぐ。の。と。そ。そ。ハ。よ。そ。と。と。
ま。と。ま。定。す。る。格。す。ぐ。と。も。む。ま。と。ま。う。と。ま。と。ま。
と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。と。ま。

又

そぞくあみうなよりく

をハ即ちへ。右はもほくあらえ
る。されば。人間であれど。身にちりぢりが

名前。おもむ。
男や。あれど。

月の光にあられむ
秋の夜よしのを
ちよよぎてくわべ
即席の一叶みだす

29

毛之部

く
トモトモ
つ
平
ぬ
ふ
むん
ゆ
る
り
き
アラホ

古今

古今文

あくさく川を立ぬらへ。山の本筋を立とうぢゆく。』
『あむ神代をきうぞ立田川かくく所あみふみくらむと
上むかうぞのや。何もあそがる時ハ少ぬにてむま格

不、ぬ、すすハ、てく移、放、便、
引後於き
まごきぬみを、
『』
郭公も、此めとづる人あかりせば
よもやるごとく。ト、とハ、のるすい、え

7

氣もろきの山べあくびれてあぐくーリ

(1)

早

古今 古今

上よりぞのや仰きをかう附ハつるトもまぶ松之
已れんてを久しくありぬむけにのきしは松い。よくめぐる。
とすりぞのや行葉がかりあれバ めぐるトもまぶ松之

夏格

松

谷の声をこちやそつ。鳴のまづあらせで喜びくれめり
上あもしろとく夏格ハモリあらものそこれ

ラト ゆらノ下へよト海を笑と

ふ

古今 古今

こよひもすの月をひろそふ秋の山を只ひそやね
んむ。

チ森 ○又ん、とおせ。

人もがお尼せきを。さきを。並び花さくタブの月くつむ吉
万葉

よきあのみくでやまくで。駄岐ぐくまお家入ゆきゆきくわ
こねくへんくとせを。

久

木古今 木古今

じくせきをまつむらんすれきの様あなまで日暮へるきを
けむ。何ぞれそをぐみにてしむへを城をむげとを只そまづり

え

古今 古今

じき構ふれどちりをひとけりありあはくみだらそえ
をハおむニアリニツモふてのをんと下ハ後、かり
きむ。古今 そくあまて所ごしんを象をばまの松山をみそこえをん

え

木古今 木古今

うちれぬ氣うじいの圓すらはよひくじふうちを称もくん
先へおここのをんと形あるのをんが上ハ □。おふく
もゆるハ □。け。下ハ も。お。往。の。や。行。多。の。あ。ま。び
詞もああ。ド。う。あるをまくまく。下へ

おまきのをん、上へ。お。ま。く。 一
そ。や。行。多。う。か。う。お。ま。の。を。ま。き。あ。ま。ぎ。

テヅレ

例句

三む。六附 それぞばたすをしてんじぬ山とすみ植へ秋ハあくとも
金魚 立とーもさがひもそだ御の花をうるれば月の夜とモ元ゆ

六附 ゆ かうめひのつゝしおとハおみつけまきに若ねどもうふえゆ

ゆ トする上おかりハ。と。走の。この。かうつき枕せ
ゆ 例ありそれハその。ちくべざすふよれふく
ゆ 例ありそれハその。ちくべざすふよれふく

る。後撰 夕ぞれハ松をからむきのあらわしやまへそつえ
けむ。毛。草をかうむきのあらわしやまへそつえ
毛。ちぎり。つむる。をのたぐい。と。はなれぬ。加
又。を。ト。レ。を。ミ。ね。み。ざ。あ。が。と。ひ。や。る。ト
あをぶ格の上のやハ。三。八。す。一。け。次。け。引。奇。を。入。合
ペ。一

る。六附 花ハあをそめをひととそくそくち根枝ハその声そらあーき
後撰 古今 ひとやふみふをそそ笛井の声せうちふをあらわんなり
古今 新伎ある。あらうけ替とづくらう今ハ氣有ある。却て
ま本 ひきうきハ神の。ふうけてけりひきうき根枝とゆく。トセウ
於本 神毎月吉流一ゆう一菖蒲は草のうこうも根ふ草を多くも
○ 例をみてておきは城食てはま。あは
古今 あう一がて石子ドア根みてて見せばふみの上をたきつ白波
是ハ白波。下へ。ありト邊てゆま
古今 めを人とゆきと。アリ。ナリ。か夜中お人のこころをどうやあくられ
是ハ。ヒトヨリ。アリ。アリト邊てゆま
古今 さくさのさくをぐく。を。あ。ド。ト。ナ。だ。き。案。ゆ。を。い。ど。ら。ハ。ん

是ハああドニトノリ一アリト廣てサニミ

おき 年もよしとがひをえたりちの里たのりくありほりかか
なりハアリコアリコアリ

古今

13

古今 いと名をもたれ様花くふまれある人をまちけり
後古生 五月五日をくぬり五疊山田の菖蒲そりをそでぬ
古今 いわ

14

是日せはなてあやむを是年のつまをこもれす
是年めに事の年を。トソ引あう可不可
りくせらハ例をそまくそてこあき出をそ
ふり加減

15

あ。トソ引ハ身身せハラハヤくとあれト
やあくとス

カ一セ

■ どこのうる、

ま木 牛のあわやるふ鹿の角つかり角西地をたのこ。

岸ハアヌモア」ハアハアヌモア

村お母ハアヌモアヒゲニシト育メア。そを

スナニトハあれども。あをそく例アーニア

万葉 妹が何うりあれやん木のらよりしてる月かをかたあびき、

毛ハアヌモアそそぶケル例あ見れ

ま木め育メヤタのミハ育メアタのミモア

説めらの

おき

16

後機 トグマヤアみのまめにれりようかましー人のひとをたさき

おき

17

後機 トグマヤアみのまめにれりようかましー人のひとをたさき

そうや。や。あがも。や。こ。まし。か。く。く。

上。よ。う。ぞ。の。や。け。き。も。と。か。る。財。ハ。ふ。い。ト。も。も。ぶ。格。人。

【古今】
古事記
家富をきあり。既て既とあ。キみりて。ふへ。ア。ケ。レ。バ
上。よ。う。ぞ。の。や。け。き。も。と。か。る。財。ハ。ふ。い。ト。次。キ。キ。
モ。テ。モ。も。ぶ。格。人。

【古今】
秋風物
約。も。テ。神。う。ち。も。ふ。祭。を。あ。』』佑。サ。の。ヨ。ウ。の。き。の。え。く。れ
ア。モ。ア。ト。

■ て。ホ。を。は。そ。の。と。ホ。ク。ハ

■ 財。を。す。の。キ。ア。マ。ド。リ。少。一。ア。リ。ド。ハ。チ。ケ。ビ。ア。ル。ト。レ。ア。キ。
■ イ。本。ニ。元。る。ト。レ。ア。キ。ト。有。れ。ト。ク。一。
■ い。ま。せ。ん。ズ。ス。リ。ヤ。く。と。山。さ。く。ま。く。ミ。ル。ヒ。チ。ク。ス。テ。ぬ。ベ。シ。
■ リ。ハ。一。ヲ。キ。ニ。島。レ。海。く。う。

■ 道。や。玉。榮。周。地。カ。宮。し。後。り。り。と。お。石。一。

【古今】

○ ひ。け。か。て。も。ま。ぐ。る。ハ

金。木。萬。の。ざ。れ。と。う。い。を。あ。ざ。さ。め。ほ。ま。あ。船。宿。の。き。て。も。今。ハ。た。の。ま。ド
そ。ハ。く。し。も。あ。ト。つ。ま。ま。ち。を。あ。び。す。ア。ト。い。い。け。ふ
て。も。も。び。く。

【古今】
古事記
身。こ。そ。や。あ。よ。も。へ。き。ん。を。が。く。や。キ。く。み。の。室。乃。あ。れ。ま。く。を。い。
上。よ。う。ぞ。の。や。け。き。も。そ。て。か。る。財。ハ。を。一。き。ト。も。も。ぶ。格。

■ ま。キ。を。波。そ。の。と。あ。る。ハ

■ あ。う。ま。る。る。魚。の。福。や。の。き。り。く。を。た。く。あ。る。声。を。か。る。一。き
セ。ト。か。く。財。ハ。か。あ。し。ト。若。う。福。あ。を。し。き。ト。若。う。ハ
と。の。そ。で。イ。本。ニ。声。を。ト。ア。リ。レ。一。
け。わ。も。も。玉。祭。ア。祭。カ。後。フ。か。リ。セ。ノ。か。う。カ。テ。キ
一。き。ト。も。ま。る。魚。の。そ。の。そ。も。ぐ。ら。が。あ。る。エ

【古今】

き。く。く。ハ。ま。き。く。を。あ。く。ほ。カ。も。あ。ぎ。く。食。を。せ。べ。う。け。る
カ。タ。カ。タ。ト。リ。よ。あ。つ。く。と。

ま あくあうかりしまにやふせば豆すをがふありてアママ
けせだ みせ、反し御アマシミテ やも御アマモバヘアマハヘ。アニ
らアラ ハツの御アラハツノミコト 安古今アヤマシニ も風アマモのゆもやさる波アマモアガアマモアガ みまアマミマ シカアマシカ らアラ

是より物ハモノリシタナモルウモリ

古々
ゑせとぐくアセトグクきよひありはアリハどめの萬アマ乃アマ多アマひかみて五ゴ手ハ。
是ハ六ロク徒トからきてカム 五ゴ手ハト五ゴ手ハみをミヲ
多くアラカニ徒トもモ。

秋アキ徒トもモレレ日ヒをヲひヒねネばバ秋アキのノ吹ブけブのノ風フウをヲ被ハせセ一イチト

けりくケリクトトもモるル御ミコトとトもモどドるルごゴくクのノモモトト。

秀翁

あるハーツの何ナニてもモびビ大タカくクべ 又アタシ一イチ。
すストトをモかカ一イチ。 ちチづヅのノきギいハ、
上アマがガりリ、下シモをモ徒ト。又アタシのモろモきキ物モノのモノれレをモ、
ののうモかカりリ、かカすス。 まマじジをモ、あアべベ、
あアぐグうウ。

祐代ヨウダはハちチ浦ウラおオまマてテへヘんン年イのノ限リをモうウべベ。
あアくクハハのノ、かカりリそモうウべベ。トト年イ、
向アシかカすスたタかカいイのノをモ、ハハくクくク休モうウくク、
リリそソうウ欲モのモノをモもモリリトト有モ。

又

今アキかカをモ、りリあアをモ、石シ見ミをモ、りリをモ、見ミるル。
くクれレをモ、いイどドをモ、もモやヤをモ。
こコれレをモ見ミしシむムをモ、りリをモそソくク見ミるルまモ。

徒之部

徒トスハ 词あはれ。そ。ぞのや。か。そ。を。さ。る。

辞めあきを今からわくりて有

徒

く トモ つ 早レ
ぬ ふ むん ゆ ろ
り とま き ま
ま ま ま ま

まーらー

古今 秋風ふるこうびぬらー。巻をよづりさせてあきらくをあく。
そハよづりひを。徒ノ音。け。徒トスハ上ニ。む。トモ。モ。トモ
ス。そ。の。や。う。そ。の。初もあくてかう。而を。り。又。こ。の
そ。の。徒。む。ま。び。初。つ。ゆ。も。切。う。格。の。初。そ。の。申。ふ
□。ば。音。の。あ。ち。ハ。加。も。で。き。も。又。そ。の。や。傍。比
を。ま。び。初。□。け。お。ハ。ま。ま。よ。ゆ。ハ。つ。ぐ。格。よ。あ。で。く。日
あれ。ど。そ。の。や。ゆ。年。そ。か。う。附。ハ。も。ま。じ。と。あ。り。て。か。そ
あり。す。や。あ。の。ハ。う。う。き。格。の。初。お。れ。バ。音。の。あ。べ。ざ。す。あ

く

万葉
あ。な。の。み。だ。ば。う。さ。ー。お。を。れ。バ。浦。を。ほ。ち。く。ゆ。ざ。ら。あ。く。あ
そ。ハ。よ。う。そ。の。や。何。多。少。か。う。附。ハ。く。る。ト。も。ま。ぶ。桂。
土。古。紀。文。集。

く

風。あ。み。や。す。の。バ。お。あ。ド。而。あ。何。り。く。く。ま。か。し。く。

音。も。す。あ。あ。ド。け。く。る。ト。そ。そ。く。詞。を。か。く。の。ご。く
仰。ト。ソ。う。何。の。上。□。お。ち。る。そ。ハ。つ。い。の。下。の。ま。ハ
よ。う。う。せ。か。り。や。く。や。う。う。て。仰。ト。モ。く。知。ト。モ。そ。そ。く。仰
く。が。く。ー。

山川らそ
そ。の。の。け。を。ふ。あ。ま。み。を。あ。炭。が。木。煙。た。う。ま。せ

ま。う。ク。神。の。あ。む。さ。た。の。そ。の。も。君。が。の。い。れ。か。ぎ。あ。れ。そ
上。お。か。り。ぞ。の。や。何。多。は。時。ハ。ま。す。れ。ぬ。ト。不。ぬ。ニ。テ
あ。ま。ま。が。格。と。又。不。ぬ。フ。モ。ハ。で。く。格。の。し。を。こ
つ。お。れ。夜。の。月。と。空。と。城。見。る。方。ど。に。花。の。時。さ。か。す。げ。ゆ。生。つ。

長。秋。浦。岸。

つ

古今
氣あうあぐまくのつまうへあや晴れあらる月をアラテ
さくへあや／＼あがむやく又 けつ
上うせかり やのやひきみ附へ つるトモリボ格之

アシカキヒ とのそざるハ

かきつくるくとある話あれど凡ても愚ぐん人や。あるとて

けかきつくるヲ 諸事無事 きつけフト百ペート有
上うりものや何事也かう時ハ かきつくるトロ格
あり 二ふくみすば 人やあもとてかきつけフト上へ
うりてあるとすれば 使せむりヅ一もく
かきまつくる神のつぐと ごく身ひくふ えまびつくる
上うもとるごく裏格ハ まの神ももの身もつるノル
かきまつくる

百一

裏格

松井

裏格

おほえ
左をまくハ あひあらまくの川 いそぐもだりお取をか つる
くわハ つるノとを ト ほて す え

星

古今
種弓をもとむきわげやくぬ はまくあふ こまつゝ
者を

裏格

まゆくちゆくちゆの かみのひくらあそく ねむく おゆく まゆく うめる
くわも める お、 えと

ふ。

古今
あうべて こまく あみ はまく あみ まく しやも ひくら
チホ
じ。 まく波やくまつこかみの うそびて まく あみ 月ひくら まく
くわも ゆく おやく まく もく やく

ム

後撰
山 まきくもまきくめ さく あまびそこれ そく さん
らむ。 いとく まきくめ さく あまびそこれ そく さん
月ほ葉
くわく まきくめ さく あまびそこれ そく さん
くわく。 犬の まきくめ さく あまびそこれ そく さん

古今
あしひきのぬめまあくうれをえうれをせせやハ

けもしハアシメ前へ

古今
みかま
三えむ

ゆるのよふ旅宿をそればいとまく一苦の衣をああがくある

けあんハ旅宿とく ねぐらのあんせよおからへ
を。と後へ

古今
みかま
三えむ

旅宿あけよくんでんれ行のひと夜の行あうちもと。おは

万葉
大ものうちでまことゆぢさもとほごとみのあやのまし

土佐日記文書
上せかりぞやのまし財ハ ゆるトむすが格

ちよべのまゆりよりことそやうせあひりともあ山元レ

ヤアリ一もくくをや仰きままでひく財ハアヌヤ。ト

じよくまし格

同上日記文書

今す枝のちろきのこそアヌ

こゆくああきくて ゆーとあめく格

百二

古今
みかま
三えむ

ああがくとまくとまく一りすたぬあひとづあだまく引

古今

高田川とまちああがる神あびのみむちの山あ時ゑまくら

レアアガルトワツノハ アケラ。トモハシミ望

上のかう。をのや。多め時ハ そトテラム見

むをま格へ

古今
みかま
三えむ

秋の夜ハアモ七月アアリおけりこと立アアリヤ「唐えせ」

是ハこと立ちアリヤ「カク」やくされバトハ後「から

されを「唐えせ」トアリ格あるをせし。ト

ヒロハ夏格又加々や「ト」や「ア」アモリ「ト」

カヨリ格の字を一空て句が当りあら財ハアホ

カヨリや。アヒアカヤラ。アモ。ヤトヒアム。ジニのや。

アカハアリ格の例又アリハカク格の例。アモ

格は切を一字えてヤトヒアム。ジニのや。アヒアヒの

きハ上へスリテ 秋の女ハモモ出ナキナリモナリ

富貴せしもくモトコア。ありやト切立シ。ヨリノ

セト候てサミニ

リテ

初犯

アラシトハモモナカケリミトノのみ手きが無ふキスコロナリ
ナリハアリヘアノ及ヒタヘ。け後モモノ
カリカセリトモモダヘ。上扶カリゾノヤ何。等ハ
テクモ時ハ。ルトモモボ格ハ。格あふづれあづハ
モノのつるを裏格トアミ

リテ

秋の女あんまう風のことをアリ。アラシトリモモアシ
シムハ。のト。あれも是ハモモ声のトバ。モモガ
リズ。これども。カリナ歟。往ノカリミアリト。アリ
モモサナリ。ナツサ。又ハ。ナツカキ格モモハモモ
ナリモハ。内ノモアリト。アリ。モモアシ

裏格

古今

アヒモラヒテ。油足モモの。油神モヤジ。月。メ。ナ。君。ア。ヨ。

裏格

古今

アヒモラヒテ。油足モモの。油神モヤジ。月。メ。ナ。君。ア。ヨ。

リテ

後撰

アヒモラヒテ。油足モモの。油神モヤジ。月。メ。ナ。君。ア。ヨ。

裏格

古今

アヒモラヒテ。油足モモの。油神モヤジ。月。メ。ナ。君。ア。ヨ。

アヒモラヒテ。油足モモの。油神モヤジ。月。メ。ナ。君。ア。ヨ。

り

形手義
りそりもるよきのあすへりをす

浦風ゆきすみとくゆ和
古今

り

袁家のは乃若あそはけり山やままほりつうまあわん
張打き

り

ちどりひよハコウトサアゲアウツキタマで人をそひケ
万葉

き

かめしハあうまちで人をそひケシキマス

き

今ノ御志けニぢたまあそくしきんちどれりあとグセ
万葉

き

けとを里宿モテリモ人のことをさしくやうす
之をけざうハちまじわあこくとむらやあんぢらやふ
思ふ事可うせこと

き

上のかりぞのやかまは財へあそまり。トモミル格
古今

き

かまくらんのやみあそべしやきを養うてヒコヒナサメよ
上うりぞのやがまきかる財ハ や。一望ふ難

き

とくをのあふ家りそよてさけせハ難の夏至をたりケ

き

シホをくはくのそざらハ

き

くもんのかぎりあそびつ日もまむかとあゆ

き

御まねふあぐりてき、とありとあーと有
てくとくとくとくとく

き

よあよあよあれや、桜花しぐけの被かぢうてかり

き

ヒトリを達ひてから時ハ カうきトあまぶ
さうをかり。トをまくに夏至をく

き

のくまくとくまくれや、ごとくねばせどもト
夜もふとまくまで夢一田をひまと氣もくせむく

上めかり。そのや仲。多の時。一まつむよ。暮
古今
放りぞ。多みうの景。づみ川。うち風さむ。1。こも。うせ山

上山から。そのやゆ。冬の時。一まと。むすを。松
取つて。あみうの。木。づみ川。うき風さも。1。そも。うせ山
上山から。そのやゆ。冬の時。一まと。むすを。松
取つて。あみうの。木。づみ川。うき風さも。1。そも。うせ山

■ あやめのやうに、さわぎたまふれ
■ あらそはどのそざるハ
■ おひたもとやうももすく、夏のをふとまおひそく、さへそひまく

是ハ一矢ふ。方さくそうあ。ト有二れ。ト
又ぞの。や。何。多。少。か。多。時。ハ。そ。う。あ。き。ト。残。禁。禁。禁。
後。於。き。
後。於。き。
後。於。き。

アラム語とあります

卷之三

毛まで ひのやちとそ 佐りきつとふ。けよトを
ちるを 一ツして そとそ

し	し
ひ	ひ
けん	ひん
ひ	ひ
ま	ま
シ	シ

かく ふく あく ゆく きく あぎむく
あどひたひの く。
もも そそ まそ さそ かそ ちそ
あみたびの も。
まつ うつ うつ もう こう とも
あみたひの つ。
ふ あふ ふふ いふ いふ あふ
あみたひの ふ。
そそ そそ そそ そそ そそ そそ
あみたひの つ。
よる ちる す す す す
あみたひの す。
あめひの ぐもつふひる、うち又人らひり、
ス す す す す す
そひとくそとくそとく

かくしてまし
学ハあく。学ハのあく。学ハやあく。学ハせりあまあく。
学ハわあく。学ハをあく。
徒
学ハまがあく。

學をあく。學の本をあく。學をあく。徒

徒
學
本
志
也

卷之三

花ぞうち。又
花のきち。花やち。
花をち。杏の花のむどきとち。
注
もぐらあく月わ花ち。

花やち。 何
わざわあく月や花やち。

にら。け。き。そ。ま。り。あ。

アリサマテ

又往々とあんまりよがりは、それを後。
先まで 大元 徒りすのびくむちび祠の格ハ
くわづも、ぬふむんゆるりときさくそトキル。

むちびの格ハ
そぞくさくを、
まわら。

— 10 —

10

○
五格子
○
五格子
○
五格子
○
五格子

五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

五
五

五
五

五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

○
五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

五
五
五
五
五

五
五

五
五

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ ଏହାର
ଅନ୍ତରେ କରିବାର ପାଇଁ

କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ
କରିବାର ପାଇଁ

୧

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ
କରିବାର ପାଇଁ

୨

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ

କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ
କରିବାର ପାଇଁ

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ
କରିବାର ପାଇଁ

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ

୩

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ

କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ
କରିବାର ପାଇଁ

୪

ମୁଖ୍ୟ ପାତା
କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ

କରିବାର ପାଇଁ
ଏହାର ଅନ୍ତରେ
କରିବାର ପାଇଁ

左　右　後　おもまび初　すみも　ゆうし格の詞あり

そのやうめもまび祠ハニカハテく祭の祠あり

タチアハシナムトニ

か。も。て。き。も。そ。く。に。く。
そ。つ。ふ。む。る。ハ。そ。を。徒。そ。の。や。り。も。も。び。初。ト。と。

モウトノミセニ

ハ
モモ後そのや何
モリモチバトアミ

カリハナウトもまく何有

卷之三

古箇日之部

こそ

けせてねへめれき

北平

三三

玉玉

ナラ

け

平度度氣にるそ
きりうちでむもとまれば山川すも度度氣とそきげ

ホシ

け

氣をこのほもとそんゆけあと財のちもとバ高一き
ほ川至

セ

こくもあき山里乃凌草生をうらのすれあぐるを

せ

○ちまびあぐとできく

セ

候後おき
度度氣をなちうせ。どもものあは月球。人ハ尼ちべうけ。

セ

人氣をまをまとくおき人あひたかみゆうを

て

おき
是ハじもトえてるべき

て

○ウムナケモレモレ

ぬ　て

今昔

直氣のまでもくづくふもともたのむればこそりよみやうふ

是ハくづくふもともたのむればこそりよみとまく

くづくふをりまくすまくしむけをもよ

みくさむかのまみふあうあくきぬあきゆきとたて

古今
春の夜乃雪ハあやす梅の花りうそくぬ雪へかくそ。

まやくすまくへまのまくやのまく
くづくふをせせせせせ

○とつだけとしもひ初をとく

ナシ

モダくとく庵えの庵ふとくをゆも坐りてよのうてありせば

是ハスく稀トも年年移りをとつげとそもよび

初め御ラモニモリと。モト幸てとでけを
是ハ不くぬ稀トネコ御はあうセバトヨイナ

よハナぬと是ハ石引れかまくとよ金帳を

アキマセテ ありせバトヨリ

後久き

○むすびをぐりてきるべ

ね

ちゑのたるそのもとをあくねもすかをもとと今八たのまえ

是へよもとえてててててて

万葉せじとくう

「アヌ。

レミのをああは思(ごく)うおちを吹風かわばあちく意(み)まのを
是ハことをノロヘあくねトはてせまえ音(おと)ハ
りまのをハフミキひくまてつしまひくまのをはれ
あり(ども)くらああさをこそあくね吹風かわばい
とびあづき とのを・エミモテはまのをハヒクアド
萬葉宿(ね)バヒメてりきひくたう吹風ニあくね
とびくああべき・あをりきのをふるはれハたゞくも
くらああさみをあくねトはれ

百十一

ヘ

後久

おつれバ被(ひ)そゆりへ被(ひ)そあ(ひ)そゆ。こあ(ひ)そひそ乃(の)あく。

○つでけとそむまび酒をもく(ひ)そく

チホ

よそ人(ひと)そぞれあるを。あ(あ)そそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそ
そそそそそそそそ
そそそそそそそ
そそそそそ
そそそ

終古今
おきあそそそそそそそそそそそそそそそ
そも人のをうつるおびりくふえせくら。山さくらうあ
是も人のをうつるべトもまよおき格(のり)を下(さ)げり
とてたまう(ひ)べトもまよおき格(のり)を下(さ)げり
つけたり

ありむちび詞をそぞりとるハ

ゆきのぞき移ふぞの移び辭をそぞりとてよつて
きよとすトありそそりす

まよみ

かづいたまもらまとぞゆれをぬ見る年がまうをさん
とひり是もあそとぞゆるトゆゑふ様もを
よでけんとくるヲ。れううをせてを。トえてよつて
けくとくのとくとくああああつてんたべー

へ

まよみ

かくをうき城あひてあくをくねうまくるあそをも

げをも

ゆき移ふり車をやーそくうてちやむと

のをとト

と

○こそトヨリくは

古今はの雪はあやべ思ひ山よりのとあらひえんこばのことを

是へそりへ思へト雪をせき

へ

まよみ

山里めきよりあうのひとづあんぢうなやとくをもと

とへ

まよみ

くじめとそ。ばりやどむきハキードあーとくと

と

まよみ

まよみのせふんをふもやうぬ月ハムモアツヤを年がこそつ

め

まよみ

○もまよびあくとよへできく

まよみ

後後折

まよみのとあら山かげあきうどもんふうぶ月城元をあ

め

まよみ

まよみのとあら山かげあきうどもんふうぶ月城元をあ

め

まよみ

五章第六

まよみのとあら山かげあきうどもんふうぶ月城元をあ

め

まよみ

まよみのとあら山かげあきうどもんふうぶ月城元をあ

め

山たき まぞたあびく。 りもやい 路のまぞとき
神さびて それべとぞく まうと それべさやけ
この山の つきはのそを この山の たばのそ

まきみ あらめどこう やもとれもあう

こねくへこそ ニツを 一つのやまと まきみ

りやへあがきや

ちくへ かのゆもくをハ神代のよしむらひづり

ちくへ かのゆもくをハ神代のよしむらひづり

ちくへ かのゆもくをハ神代のよしむらひづり

りやへあがきや

ら おれ ちくへ かのゆもくをハ神代のよしむらひづり

ら おれ ちくへ かのゆもくをハ神代のよしむらひづり

ら おれ ちくへ かのゆもくをハ神代のよしむらひづり

けさこそ かのゆもくをノミニ 又げらわ くら
あゆのゆへ ひのむくまき 上のまき わせ 後
そのやゆ まゆをだる財 ひらびとむまよ整

けさこそ かのゆもくをノミニ 又げらわ くら
あゆのゆへ ひのむくまき 上のまき わせ 後
そのやゆ まゆをだる財 ひらびとむまよ整

うかくふ うかくへとのぞおうすく有
けうそト とおるうそハ内を 滞もすまされとも 内を
滞もすもレソもく滞で生ずるあく内を あく
滞内ハ聲もぬきとうるへとおもとざきを うき内を 滞
とくもニ字ニ字あかまうじとくへ

○ えでりとおもとび内を うそ うそ

後後振 ふそちぎり きみかそるもお育てまち月や そろらん
きハ ふそちぎり きみかそるもお育てまち月や そろらん
エテ人とて ねつ。 うそをもてまち そも えてエテ

かくまく花と あれ あたおおお育てまちやうくうりけ。

けとと、 ほのまき

大和物語 かくまく花と あれ あたおおお育てまちやうくうりけ。

東山

後後振

後後振

後後振

後後振

うへとそひをせこひをもあはトをさう

又

あらわをあおあおんかきを人のとのひさがみくにせふ

けあヒハモモセモ勝辞

あれ

万葉後院山のものあそんと思へどをぬべきもの城をすもあれ

是がありバこそそめ思へども

バ可を

おおせ

後院山のものあそんと思ふをぬべきものをすもあれ
とあり是を初め候ふ けすハ萬葉四書空て二の
る食社とあるをあきと菊也ノ移を
ありこそとゆふ初後院山ハ耳とあきみうりて
因ふあざと直すれどをあててまをほどのてふるえ
又萬葉今の中「あめかとそし御」もほりあり

あれ

古今古事記例へ有

○ひみそもまざハ

後院

難波岸城多ミモシテの浦ごと先やけをばくとアラヌニ

ヒナカセモモヒナリ

あれ

古今太刀の秋くちくわあ身をうあー身とおもひたうあれ

これのくちくと上うち身との身下をくたべー
と。もすじふしきトもまぐる、身生もあれど
生の身と身をかきとくとけすのことをハ太刀の
秋くちくわあ身をかきとくと身ひたうあれ
とすとそとへかくいも

こそノモノもとをたぐてそのとざるハ

ふわらや
あそことハ夏のことをあひまくともあれこよひるべ

うゆハ 何事ある是ハ けれども あり「れども
は」
辯 けれども かくらむ けりの えハ こそしむとて

あそびまでやまびこをはりてもおき要
うて上つてゐたときあるごとに見ゆ

古今

あらわすどきとき時ハあじまの山より月乃りて

○ひけをもとづハ
今來
重さんとのおれバミソレをちやうじゆに。たもちくはき。

1

是ハたのもれ巴をくれトヨミトモをくれト
レヒナモもまじうり又あやし。ハあげきの事。
おきされこそ、るぬ人をやまひもれあるもあすで、ハやむをきりあー
れ位をえと、
方のよき、所にまれることをゆふおもい
れ古今、ベ里語、
くをバニがくろとをあぐまもれ、あくまーじよーどをばがくりみ
古今
つうちもちとをあくわとももちゆれたが被あん、家の梅ぞそ
原山かくら
りざれわくぬ候ふ船をと風すすむがこそうれ
まよ
古今
あくあくと名ふことをたれ梯を年ふすれ多くもうちけり
占今
少みこそ今ハあざあれこれあくべニキモト時も行はまくもめ

やうれどもむすべせどりバかくられぬよりやをこそハ紫のゆゑ
きハゆゑノトヘあれト海てアミコモシモハ

それを之にトヤハあげきのやく

ゆき草草木あれこそハ先もりらるトスレ人のゆへだもやおのすゝみ

○りひく坐てもまくさハ

おまえも声をちかくあるがとがくぶく日あまちや。うらん

是ハ戸をもちくもれトアモトアモト

むしよどき声をもくハあるのども滅のとをもくふあざれ

○もももじまくすとてまくさハ

くそうひきの者をもあれどゆくももぬらまのむけを

どトタテルヘドニナリ

おまえ 旗ゆうばれそなれり山のまよのこハもほせざるを

月さればちゆゑとをかま

れゑおひきのれあはあぬ

絶あはる上を「やうぞ」とひてゆかれともすへるハち
のくに「やうぞとしき。ゆれりとむもくべー」セ
「ゆれあはば上をゆけはともソズレ一有

上うりぞのやうもまくかる時ハかまくきともす
格へようすてをそからそ次をほきそむすへ

約を繕あまつ集うくまくあハビ格あー一有

もそよがりそきとむすべるハ

おまえ人あーあたぐのモリれどおのがまことをこぢりき

か例ハうれどもすまくまくがまくありあれども

まくまでらでりとあハざる時もすびとぞを
まくまくとおづく時のハくまくかくト

月さればちゆゑとをかま

れゑおひきのれあはあぬ

絶あはる上を「やうぞ」とひてゆかれともすへるハち
のくに「やうぞとしき。ゆれりとむもくべー」セ
「ゆれあはば上をゆけはともソズレ一有

上うりぞのやうもまくかる時ハかまくきともす
格へようすてをそからそ次をほきそむすへ

約を繕あまつ集うくまくあハビ格あー一有

もそよがりそきとむすべるハ

おまえ人あーあたぐのモリれどおのがまことをこぢりき

か例ハうれどもすまくまくがまくありあれども

まくまでらでりとあハざる時もすびとぞを
まくまくとおづく時のハくまくかくト

月さればちゆゑとをかま

れゑおひきのれあはあぬ

絶あはる上を「やうぞ」とひてゆかれともすへるハち
のくに「やうぞとしき。ゆれりとむもくべー」セ
「ゆれあはば上をゆけはともソズレ一有

上うりぞのやうもまくかる時ハかまくきともす
格へようすてをそからそ次をほきそむすへ

約を繕あまつ集うくまくあハビ格あー一有

もそよがりそきとむすべるハ

おまえ人あーあたぐのモリれどおのがまことをこぢりき

か例ハうれどもすまくまくがまくありあれども

まくまでらでりとあハざる時もすびとぞを
まくまくとおづく時のハくまくかくト

次至

五社百首

五社百首
夏のことをかのこくも見るべきを被ふ波えらかの音ほなす
ひぐくとてうれのくはくとくかくとく

12云

友説
をみちあはきときめしやくからものめみとどもふるそと

13云

おは撰
あくともす。秋風の神あれめりあく川のせれ

14云

金玉
ゆく八月をのこるをあらむ。お今八日をゆく金玉あらけり

15云

○むすびゑとてきるハ
お玉はすぞつもすび辭を玉あらけり

16云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

17云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

18云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

19云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

20云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

21云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

22云

毛人
毛人とよびあらむ。お玉てとてまたりはねば

一
卷之三

後於き

おもかげとこそゆき。さうしてお園を。ひりける。

おひなさん
おひなさん
おひなさん

三

余情をもくませて、ヒウトもきべり

1

余情ハ 畏もアラモアゲキモアラリナアリト一時ハ

1

おまえもおちからもあつてへまくと
あらひのんもう一歩、おらきのとば

卷之三

金糸
有ぬが月もあるべく浦をゆはむうとて

けしりと見るうはうたびのかはあひ
こそむきびのしうらをまくよむべー

け音ハ 敦通和主 ああひをうて 又のタあよみー

5

あればちくもとめかきあま、と見ひあぐり

まくあきのくれあトワキアレバ
まくわノカガモノミニス

ゆかめふとそかハキトとめづ例有

けく中音おきあうとめづこれ
うれありト有

スミトカウテキトモミトナリメカヒ

ミトサユガハシモノミニ

モモムモビラレハラカレノミトサユ

モモムモビラレハラカレノミトサユ

モモムモビラレハラカレノミトサユ

モモムモビラレハラカレノミトサユ

ら
古今

ぬきみる人をあらへまのまもちう神のせむたす

<p style="text-align: right;">24001-1</p> <table border="1"> <tr> <td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td></tr> <tr> <td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td></tr> <tr> <td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td></tr> <tr> <td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td><td>କାନ୍ଦିଲା</td></tr> </table>	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା		
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
<p style="text-align: center;">କା</p>	<p style="text-align: center;">କ</p>	<p style="text-align: center;">କ</p>												
<p style="text-align: right;">କାନ୍ଦିଲା</p> <table border="1"> <tr> <td>କାନ୍ଦିଲା</td> <td>କାନ୍ଦିଲା</td> <td>କାନ୍ଦିଲା</td> </tr> </table>	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା		
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												
କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା	କାନ୍ଦିଲା												

2	ア	ハ	ニ
3	セ	リ	ト
4	テ	ル	キ
5	シ	ル	ル
6	セ	ル	ル
7	ア	ル	ル
8	ハ	ル	ル
9	ニ	ル	ル
10	ト	ル	ル
11	リ	ル	ル
12	ル	ル	ル
13	ル	ル	ル
14	ル	ル	ル
15	ル	ル	ル
16	ル	ル	ル
17	ル	ル	ル
18	ル	ル	ル
19	ル	ル	ル
20	ル	ル	ル
21	ル	ル	ル
22	ル	ル	ル
23	ル	ル	ル
24	ル	ル	ル
25	ル	ル	ル
26	ル	ル	ル
27	ル	ル	ル
28	ル	ル	ル
29	ル	ル	ル
30	ル	ル	ル
31	ル	ル	ル
32	ル	ル	ル
33	ル	ル	ル
34	ル	ル	ル
35	ル	ル	ル
36	ル	ル	ル
37	ル	ル	ル
38	ル	ル	ル
39	ル	ル	ル
40	ル	ル	ル
41	ル	ル	ル
42	ル	ル	ル
43	ル	ル	ル
44	ル	ル	ル
45	ル	ル	ル
46	ル	ル	ル
47	ル	ル	ル
48	ル	ル	ル
49	ル	ル	ル
50	ル	ル	ル
51	ル	ル	ル
52	ル	ル	ル
53	ル	ル	ル
54	ル	ル	ル
55	ル	ル	ル
56	ル	ル	ル
57	ル	ル	ル
58	ル	ル	ル
59	ル	ル	ル
60	ル	ル	ル
61	ル	ル	ル
62	ル	ル	ル
63	ル	ル	ル
64	ル	ル	ル
65	ル	ル	ル
66	ル	ル	ル
67	ル	ル	ル
68	ル	ル	ル
69	ル	ル	ル
70	ル	ル	ル
71	ル	ル	ル
72	ル	ル	ル
73	ル	ル	ル
74	ル	ル	ル
75	ル	ル	ル
76	ル	ル	ル
77	ル	ル	ル
78	ル	ル	ル
79	ル	ル	ル
80	ル	ル	ル
81	ル	ル	ル
82	ル	ル	ル
83	ル	ル	ル
84	ル	ル	ル
85	ル	ル	ル
86	ル	ル	ル
87	ル	ル	ル
88	ル	ル	ル
89	ル	ル	ル
90	ル	ル	ル
91	ル	ル	ル
92	ル	ル	ル
93	ル	ル	ル
94	ル	ル	ル
95	ル	ル	ル
96	ル	ル	ル
97	ル	ル	ル
98	ル	ル	ル
99	ル	ル	ル
100	ル	ル	ル

哉之部

又切あはす あはすを あハシテシテ詩みあを済ス
え之 あハケリキ けりあ カヒルモトタヒの
あけゆゑす あとくべき石を あとくひいも

お右一ト有

又ぞや けりをとかうてハ あとじまふことあ一ト有

けぞや けりをとかうてハ あまトむちぶくある一トハ

クあつてふとは そのをすらハ

クあ つてお土ハ イロ御の二ト有

て そ 後 の

クあ

けきあう増のみ良きて不外たすくみ著ハ立ふぞあらる
けごとくそトからりて あト单くもハとのえおも之
れハ 望き聲あ是ハう一集りニキムラタケリと
あらをうち一きト有又

△あれきてつあことも神頃み聲りあら身ぞ あ事れむ
是もぞトからりて あト单くもハとのえ
切あはす あれハ せびぞと写一集りニキムラタ
ケリトありうち一ト有

右もとくじハ写一集りニキムラタケリト有下

又

○多ノ上みぞや けりをトありもそのつるハ
又もん時ぞと見べだたのすれぬ声者やあればまへにま

従

後撰

け又も二三時ぞと足りど。ぞハからざるにてゆてゆく
をハナキのまよとひさおうそゆり上ふ
ぞ又やああ又れど又り。あめうたぐいあり
てもかくねば下へ。後のかくつてくすトも
りくとくえすのぞ。くとくのや。あ。さういつ。
あくとくのまよ。下宿モ下をまもせび初モ下び
て下のからだ。と。達のまがかりを。あ。トセ

源氏物語

卷之

〔伝〕
古今
九月ふ考やへづる。そのと乃月をそむかむりひやうる
是ハよあるこぐしのや。あれもけごく。考やへづるト
むそび初モ下そびが花バトハ。セ傳のまがかり
そそあ。トセ

百三十四

かくうそ。あ。トサリたり

おき

「ちをやハモグシのや。

おき

かくう詩とあらをや。都公あまもまくも。まくらを。

間がぬけをハ。もの。まくら。まくら。まくら。
在れをやの。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。

六非
あぐ人のんハ。まくらの。神されや。まくら。まくら。
け。ゆや。ハ。りや。まくら。まくら。まくら。まくら。

毛

千歳
これや隻

ナニ
ナニ

の身みがりゆゑとモ旨之

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

モ

や。かくもやうてあり。一章。それハ初を席て
玉あをはを食そせまえかくもうてあんあり
吾や食あくと酒を席そんがべー

〔徒〕
おさ
いきそろクヌアリ。いにあらむぞ身たり。あるふくげ。」
けちゆる。レムハ自西有養みてゆく。スモゲ
ケリ。 やいふ。いふ。あどハ切。し。さす。上
きく。れハ下ハ。を。後。の。身。め。か。り。あ。て。お。ト。も。身。

〔の〕
おさ
りづくとあけてそれを候。みどり。町とある。じにて。ひ。あ
け。り。づ。く。モ。候。之。放。ゆ。つ。る。ご。と。く。上
文。く。る。一。ツ。の。仰。そ。む。ま。い。あ。ハ。く。そ。ね。バ。ト。ハ
の。望。

〔徒〕
後。おさ
りづくと。身。め。か。り。あ。て。お。ト。も。身。
け。り。づ。く。モ。候。之。放。ゆ。つ。る。ご。と。く。上
文。く。る。一。ツ。の。仰。そ。む。ま。い。あ。ハ。く。そ。ね。バ。ト。ハ

〔徒〕

風。水

石。を。後。の。身。め。か。り。あ。て。お。ト。も。身。

人。

川。

水。

石。

人。

水。

石。

人。

水。

石。

人。

水。

石。

〔徒〕

風。水

石。を。後。の。身。め。か。り。あ。て。お。ト。も。身。

人。

川。

水。

石。

人。

水。

石。

人。

水。

石。

〔の〕

風。水

石。を。後。の。身。め。か。り。あ。て。お。ト。も。身。

人。

川。

水。

石。

人。

水。

石。

人。

水。

石。

〔の〕

風。水

石。を。後。の。身。め。か。り。あ。て。お。ト。も。身。

人。

川。

水。

石。

人。

水。

石。

人。

水。

石。

あらびくの處をもる事トソラモアリト
この事をり今ト あまめぬかトソラカヤト
シモを以てベー

後赤き

おくみまれの事もうさあらきのじつとベー。どんよりるる事
けりうとくづる御ハアベリソテモモジハを
スルシテ、うとベキトモモハ格モトソラ
トベリ。モモジハをスルシテ、もモハ格モトソラ
モヘモテのこゑハアベヌツル時モサムニ
アラシカリ。

古今

差とそりやけれをせすかうてあらひけ。事
是ハニモモモジハをモモジハレバ、アモヒモモモ
モモモクノモモロス。モモスルスセモ山モモクモ
モモハモモモクノモモロス。トモモハ格モトモ
アラシモモハのんもモロス。モハリモモレモ

後

むちひ詞をぞくす。をト交てトヘゲト
ペト。アモモモモとスル。アラシカリ。
右の上モモモモモモモモモモモモ
シモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモ

於其

アモモモモモモモモモモモモモモ
モハゾヤガモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモ

後赤

モモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモ

古今

〔後〕

古今

秋のせふみぞれてさけりるるのまほりふ時ふとひを思ふとうあ

こゑくへをかうりてこれを後かうりといふ

〔後〕

古今

たあばとみゆるまみを女むらむ秋よりやうわあす耐もあ

こゑくへみうりかうりてこれを後かうりといふ

〔後〕

古今

まうみあみまう初かりびけよまく声のうりよに多

これハののかうり

○うあめと乃り。

〔後〕

古今

絛えどりまうりかけてすみ落葉をもゆぐるまのやうだ

古今あすきのよそとあも人のちりゆくうなみふちよハヌキものく

〔後〕

古今

うつ櫻のせふを似うりく櫻をまうと不まううちゆけり

〔後〕

古今

れあれを今入立と思へども人うきくをあつるもむく

又け次あく後かうり

〔後〕

古今

風すげばみのふきかるまくのまくとれあたるがまうろう

左のくじはま うもノミサクス

〔後〕

古今

ひとのむくとせうる波のむくもだまのくに玉は後か

〔後〕

古今

玉まへじむけとみれせぬ拂葉乃玉さくあべき神のまくを

〔後〕

古今

福がまきががふ がむ がむ

〔後〕

古今

在あーおぞき後山のまくと人ふすれでくるよーとげあ

〔後〕

古今

花の木みあづかづかども怪あきりやうよーとこくする時ヒダカ

〔後〕

けうとく けうとく 河を流す石碑 とモヒトセラ付
んヲ転て カトアヒ有これハあくまんどもトハ
いそれされバ 人ナカトアヒテアケムルニ

後
えらがくちをくらうへ食アシテあぐとどもと呑スルるか
あ珠アラタ集スル もハモグクトニツト

あつてすみぬまきりあけりこくらの雪シロアリマガ

モレジモルノ里語タイモノギヤ

モレジモルノ里語タイモノギヤ

又

後
見ミ初ヒ

ちくわからふーからのよはらすもつひのことよまくぬふ
これハみのまへ

後
見ミ

みあーの山乃口アシタカえてしらまむ四シラマムシの山乃口アシタカせん
初ヒまゆるムルてしづシズあハシ多福タフ多福タフ有アリ又

後
見ミ

ひきをバ玉ハナタケたんやハナタケて神カミの事モノもさうてシテま

見ミハつて極ヒツのくわく

後
見ミ

あくびて極ヒツのくわく神カミやハナタケを又も見ミてシテま
ひきをバ玉ハナタケたんやハナタケて神カミの事モノもさうてシテま

百二十九

後
見ミ

らぐちのふヒアラヒかく高タカくタカあく人ヒトあくせん
ヒモグヒモグノ里語タイモノギヤ

後
見ミ

かひをすめスメモモモモレレがけガケれレとトありモリさよサヨの山サン

後
見ミ

後
見ミ修歩シウボの脚ハタとトあすアスもありモリレレが彼ヒきヒてシテるルづヅん
ヒモグヒモグノ里語タイモノギヤ

後
見ミ

あゆアユの山サンへヘまうちマウチれてルそこモいモな旅リ行リてシテるル

後
見ミ

おも里アモリハハレレがガてシテるルまマすス。

後
見ミ

ゆひユヒを休ヒュウてシテてシテ風カキをカキとトぎギやヤとトてテやヤん

後
見ミ

けもグケモグノ里語タイモノギヤ又アリモモとトハ
ググセセとトすスかカくクるルとトそソモモとト外エバ例リート有アリ

形春批

卷の角あきつを皮筋あぐとつみて端が家つとせん
用ひ筋も是ハ例あきひがくとすりけすと
万葉ニカモテ「筋みせが」とうを改てひき
られ「く」市筋も万葉の筋取かくあくらで
入まうれから書り下さりあり又

字書格紙の巻の細ふ

クの筋もちをちあとむハ毛をふ
う一筆ねるもタベート有

叶格紙の巻の筋は國をもとどまハイ卒サハ
クの筋ももうとくがトあり

先トものア

百三

都々之部

レアハトト余情あつてをり

詞五筋ふ

例上ハセモ後のあり そや何と
か立てへばと筋を例すト有

立めぞや何ととかりてハ後と
ももも例すトハ

つめて尔を後とのとすト有

物後於此
立のほり富士の山風そよきて煙もアモモをどあり

是ハモトからて トソリ

詞五筋ふは文も写ノ後と 古本六
和と下りこれうちト有

多事をひかひや神音力けまへたまれのあまきり

漢後批

是ハヨリダニやあり重テテモキビもあれどト
角モルハとのそレ

内玉城ニモ喜ムニトシナリ露ニトノシモ
喜テケサハアソク人皆ナト全ト喜キトサシ
あれバ 旗勿御 ありまくらんとありてこそ え
スルカラシトシテダカトシをつと足して てとハ
ミタモラレシト有

石舟寺有あるてん所ト

○金情あるてハ

(古) 古今
喜慶度ナシルコミナセの芳神山か君不リテ
叶ヤリコハ どひくもきを切ケリナレハルハ
也。後の大和がりやテ フリモ第ノ又キホ
ミハ喜バキリテ 喜モモミルミトヨリ少ミ

シキヤセリ又フリテノ便

吉ハナリフ喜ハナリフトテアシテフリナキ
君ハナリテ。一金情をシキヤセリト有

(古) 古今
シキヤセリハ尼セキのシテ日ノリテテ所明ゆ出ゲ
レキハヤエ放モシテシテシキヤセリハシテ
シキヤハノミサセキテシキヤハナセキドヒ思シ
アシテトリキシテシキヤヒテケリトキ
ミハ御事能ニシキヤレテシモモハアソキシキ
シテシキヤセリト有

(古) 古今
シキヤセリ又フリテノ便
吉ハナリフ喜ハナリフトテアシテフリナキ
君ハナリテ。一金情をシキヤセリト有

(古) 古今
タナベハシモヒガニキニ秋の季節モキモキモリテ
モリハナリノ至ヒニキモキモキモリテ

初事秋の事モトハシをもつていふゆゑ
古今 ことよト有

(の) 花むれりあひでこそひばる城をもあひものむをぢれて
何をねむもせぢれて下のまちるこよのく
さよとふ金精とりり

金精あるてハ石をもももてんむかべ

りおがふ

てハあををそて切ざるせゑふあををそ
むまぶすすすー有毛ハ金精あるてつりそ

キのあををそてとどろハ

て やうみつーヨウミツとすすめるて

古今 来百神ふる葉つみリハ万代をそよあらハ神ミタマシム。

(て) 花ハナ人すつて人すつ時をそよごの神ミタマシムのそ。あやぢられり。

⑦

古今

山里ハ秋をそよとあよびアヨビ。山のあくねアクネめくすムクスて

是ハ又角カツめありかアリカてトあれど上アベくらふを
そよと 山ヤマとハ麻マのあくねアクネふらはさすフラサスて
秋アキをそよふるびルビ。ルニ包ハグてそよとそ

古今 麻マは根ルのあくねアクネと云ヒテ。表ヒザの山ヤマ乃ノかげをそよと

是もまたお山ヤマの名メイをそよとそよとそよとあふるの

じふ立タチをそよとアヨビ。アヨビアヨビて是シテそよとあふるの

葉ハタケりふありて。シクシクシクシクて金精キンショウ。トアシガれやし
えをそよとみづアヨビ。あまねく蘆ロをもむきの名メイをそよれ
是シテ是シテをあらそよとアヨビ。あまねく蘆ロをもむきの名メイをそよれ
て是シテをあらそよとアヨビ。是シテをそよとアヨビ。是シテをそよとアヨビ。

⑧

古今

山里ハ秋をそよとあよびアヨビ。山のあくねアクネめくすムクスて

是ハ又角カツめありかアリカてトあれど上アベくらふを
そよと 山ヤマとハ麻マのあくねアクネふらはさすフラサスて
秋アキをそよふるびルビ。ルニ包ハグてそよとそ

古今 麻マは根ルのあくねアクネと云ヒテ。表ヒザの山ヤマ乃ノかげをそよと

是もまたお山ヤマの名メイをそよとそよとそよとあふるの

じふ立タチをそよとアヨビ。アヨビアヨビて是シテそよとあふるの

よえるすはくをよま

せうとふそび一れ

あはりとくみ立ざる

ゑをあらうじつゑ

まく上あゆあさりて玉づべ

○あがうトレアムサフハ

あぐ古今きうね山喜ふせつあか坂乃園のこよみ年號あくま
あぐ古今月夜やくぬ人まくらかきくりゑもくえび古もゆ
あぐ後撰たゑ根の御の花はうと見え古もれたのむくま
右のたぐいのつハ古とすとみくづりされど
でがくしてゆゆる古ト別々古くわあくべす乃
まよよりて古とあぐ古とゆゆるがある

詞を詠みげあぐ古あからひてゆゆ古ハフリ
を詠海古るがむろきこ古づも古ハ古ヒ
てもあくらむがふ古つモハ古テモ古ヒても
よもーまくら古テモハ古即古くも古と
りあくより古ト有古ヌ

○でトウあかま古ハ

詞を詠み古てといそん古文字の古あ時古み古す
くよをせそ古て古とよハ古シク古く古てハ古マ
かよ古ども古ハ古て古かよ古ざ古ざ古ありと
あくべー古ト有古

ちか古よ古ト古さと古ゆせん古く古く古あれハリ
金古くね古一

上へ之をあわせ波

卷之三

何
ア
ウ

乃のハ何けゆ。トよえりてゆタとえ又

卷之三

差別ありたゞバ
あらはれゆきよ、ゆきよ
あらはれゆきよ、ゆきよ

ありゆうヒヨーとハヂ

えうるせうるとひて
ひりせめりとハリモヒ

卷之三

又ちりふりあと
ちりゆうわく
ちりゆうわく

○ ちうる まくと、
○ まくとも

おこなひておきりする年。の内おまかはづくもあくじと見へば
是ハ年の事事ハづくもあくじと見へばぬれどぞ

フ。フ。フ。エラ。エラ。エラ。エラ。エラ。エラ。

くろあぐまちうすつうじーあゆ味もて山ふる月残れて
まよあや味もて山ふる月残れて象もあぐま

まつト上へぐりてあらえ
もどりやくむまびすかく

古今「山」をさびてさよりけり人ルニヤもまもかれぬとゆべバ

人ルニヤもまもかれぬとゆべ巴山里ハキミヤシ一さ

さすりけりトよこすりて身ルニヤまく

朝恒集

衣ルサウナみぞけさハめれルアラる思ひ森の差池ルサウナみやハあくルサウナん

こゆくハスムニタタヨリムラトあれ、もあギのミモ
足ひぬの夏後ルサウナあさくやあハあくルサウナんをみぞけさハ

ゆれらトよこりて身ルニヤまく

古ルサウナ今ルサウナ里語ハルサウナテアルルサウナモトタルサウナトアルルサウナヘ

古ルサウナ今ルサウナ里語ハルサウナデアラウルサウナデアロルサウナルサウナルサウナアロルサウナトアルルサウナヘ

古今

ああー身ルサウナういとそんルサウナおきうらうふ人ルサウナひりやあールサウナや

百三十

ああー身ルサウナういとそんルサウナおきうらうふ人ルサウナひりやあールサウナや
りきくとそんルサウナトニルサウナうりてあるとルサウナスルサウナあんルサウナや
あールサウナやハ切ルサウナやルサウナあもルサウナやあきルサウナやトルサウナバルサウナう
ひめルサウナやルサウナりをそんルサウナしづルサウナかルサウナつルサウナおまルサウナ橋ルサウナす
ゆるルサウナやルサウナもまルサウナびルサウナかルサウナくルサウナき

人ルサウナ里語ハルサウナウルサウナウルサウナヘ

古今

ああールサウナういとそんルサウナおきうらうふ人ルサウナひりやあールサウナや
あふう駆ルサウナはのルサウナハ行ルサウナきあールサウナかルサウナドルサウナかルサウナんルサウナそ

こうれけルサウナトルサウナうくルサウナて身ルサウナそ

古今

ああールサウナういとそんルサウナおきうらうふ人ルサウナひりやあールサウナや
あふう駆ルサウナはのルサウナハ行ルサウナきあールサウナかルサウナドルサウナかルサウナんルサウナそ

せせ身ルサウナのあんルサウナばルサウナそルサウナ人もルサウナづルサウナづルサウナ子ルサウナゆ

古今

ああールサウナういとそんルサウナおきうらうふ人ルサウナひりやあールサウナや
あふう駆ルサウナはのルサウナハ行ルサウナきあールサウナかルサウナドルサウナかルサウナんルサウナそ

古今

ああールサウナういとそんルサウナおきうらうふ人ルサウナひりやあールサウナや
あふう駆ルサウナはのルサウナハ行ルサウナきあールサウナかルサウナドルサウナかルサウナんルサウナそ

うくわきんとよくうり、あくまでえばくん
みのあんくみのまんハヌベキヌベシ
けつみのあんハモモを後ぞのやかをめめもまく
すき又

祐がきのあんノ里語ハ【テクレヨ】
エ

古今
まのちつらを年ふりなりあくめんを人リテクレヨ
是ハ祐がきのあんく祐がきのあん上リテクレヨのかり
むを後入

古今
已うちれを巴山のさくらふかうせてんリテクレヨとくじとくじハ御のまのく
さん人リテクレヨとらドハ花のまくじれを巴山の様リテクレヨふおうせ
てんトよくうりてゆくとく

る。ノ里語ハ【テミヨウ】
【テヰヨウ】
【テヰヨウ】
【テクレウ】
【テオヨウ】
【テノケウ】

百三十六

後

きのあくノ里語ハ【ニニ】
【ニ】
【ニグイニ】
エ

古今
巴山あくとあくノ里語ハ【ニ】
度さくらうての後の船ありせ
度構うりそのは乃船ありせバ
あくとあくと
クノモーントよくうりてゆくとく
をドモも又行ひ承モもとくとく
でナリモとくとくとく

まくノ里語ハ【ウモノ】
【ウモカ】
【モノガタ】
エ

古今
あくをハううぞけぬらーテミヨウあくの山の跡つせあとあるを
あくの山乃跡テミヨウせあとあるをありふるを
うそけぬらーテミヨウとくとくあるをらし跡テミヨウと
をドモりふりとくらんくモとくとくとくとくとく
らーモとくとくとくとくとくとくとくとく

まくノ里語ハ【ヲサウナ】
【サウナ】
エ

めらーテミヨウテミヨウエ
あらーギヤサウナエ

からタノサウナ
からタノサウナ

あラモラーデアルサウナ

ナウチ テアルガウチ

大和物語
もぞりそがくあひあびくめるおのそぬゆ風そかげども
才子集

あじくやまとへりてゐる

卷之三

三ノ里詰ハモニタリ

卷之三

外
ノ
リ

五
七

卷之八

カムモウリ

三
九
八
七
六
五
四
三
二
一

又 もちこそノ里治ハ ベニアモナリス

我古今
「ツトトウモトカハヌ」

ナモロクバあれ。まゆく、まゆるきの上手ちととまゆる。
れゆく事もまゆが上あらう。まゆ花。あちり。

さもロクバあれ。トノタカヘテアリ。

おき

コモアグバあれ。里語ハ「ツトトウモトカハヌ」。

後れき
けふるねバ。おのうて。あを。あうり。アメ。あめのくきのひのこして。
タフシレバ。あやちの。あめびらちの。くじ。キモア
ト。あも。あうり。ケウトニ。タカヘテ。アリ。

けり。重慶ハト。アツト。

おの。まゆちう。房。不。きく。か。ど。あ。き。時。夜。も。五。日。せ。ぬ。未。も
未。れ。も。よ。も。時。あ。せ。ぬ。よ。も。あ。の。そ。ち。る。宿。ハ。キ。く。已。く
か。く。ぞ。あ。き。ト。よ。く。う。り。て。あ。ま。く。と。え。

後れき

山の鶴。むかし。まつ。山。山。あ。い。れ。ど。も。月。ハ。う。れ。さ。り。け。

あれ。ハ。池。あ。さ。り。ぬ。も。月。ハ。う。れ。す。が。り。ま。山。の。ち。の。

から。お。一。バ。ト。上。く。う。り。て。る。ち。そ。く。さ。く。く。れ。て
お。一。バ。ト。あ。う。て。ろ。ふ。　　月。か。ま。一。ト。う。か。こ。ば。下。ふ。

あ。く。ま。せ。ぐ。る。し。み。へ

今。年。

よ。く。そ。も。小。ま。ち。う。ま。の。花。ま。る。ア。キ。を。あ。ん。上。人。ま。け。ひ。を

月。桂。草。

ア。キ。を。あ。ん。上。人。ま。け。ひ。を

四。字。人。木。よ。い。の。け。キ。を

四。字。人。木。よ。い。の。け。キ。を

四。字。人。木。よ。い。の。け。キ。を

四。字。人。木。よ。い。の。け。キ。を

右。三。ミ。フ。句。四。ド。ロ。柏。子。へ

月。ハ。の。け。一。ま。を。人。木。よ。い。の。け。キ。を

右。三。ミ。フ。句。四。ド。ロ。柏。子。へ

風のさうりを人のそくへうるそむと
秋のあらひを人のそくへうるそむと

どか・里語ハナリトモ デモ

是より下ハアシミをふくませてよこハアシミをひぐ

後於三

あらバ 走てぞ身のうきともすそ悪ハかぎりのあらまつバ
走ハナリ・ハノフヘよからまートよきをあく
よせくらとく

あらバ いづある月日をちあざのきの夜の夜とひそくハ
走ハナリ・ハノフヘよからまートよきをあく
よせくらとく

あを ちくわうああそと人のつひ一時立病とこくても、あま一地を
先ハ船をつたまくまくあそてからくじにをる

百三十九

キ

ラセカヤ そよトウカミをあくまく

つひありとハモテチーうきのふりとハ只てそくー不
けまーしを、そぼくーまのを、まもて思くざ
ーをノトークをかぎりの令くありぬトウふ
テミをそくまく

ヒテ

古今 月やあみまちやむーの表あみまちひとうハモテカミ
モハーとノトーかくりゆくことよトイミをあく
まく

モホ

モホ

古今 あてハひとよふよふかすのあまびのあめ不せんまで
走ハナリ・トヘあらまとよトイミをあくせ
トリ 余ハあふあびくとくらべー

モホ

古今 ものくがおのぶあぢぞうなれあふふれと足ふあああ
セダ もがくをねえのとくふくももあーとみのうてありせば

おもせば、又えーからオートマチックをや
ヤセマチ

ちかくまへ

おもせば

えのを

あきあき

さうを

りて

で

あく

セバ

あくまへとおとをやくをせて金情
あらぬうあらぐありとふねばー

い初の至ちてあがつて後ハ翠すば湖のよは
おれじまゆじるのうようきうきつふうに
被る格をアゲキありてとおを波のとくのハモムカ
モテテモハムグモーとふたりグロボのこく
モグモのなりあひの波もヨリ一叶ハモのたぐり
ありきあせむうめんもアリてとくあるは
よきあくしておれもそやましをりとぞ
いもれ

五十字韻

假名の

久くやくべ

上みある字試父字と云
下みある字試母字と云

父字ハ堅五文字試うちを

上右(かふのみ)を模(

うごきを

母字ハ模十字試うちを

右左(かうさく)を堅(

うじうべ

されば模十字試うちを

父字母字有時ハ母字ハ左

右(うそく)えのされば母字の

方より父字の方(かうひて)

人字をう(一字)と云

わ	ら	や	ま	も	か	あ
い	り	ね	い	ち	き	い
う	れ	ゆ	む	つ	す	う
る	れ	れ	め	て	せ	た

わ	ら	や	ま	も	か	あ
い	り	ね	い	ち	き	い
う	れ	ゆ	む	つ	す	う
る	れ	れ	め	て	せ	た

又堅み字のみうち父字母字有時ハ父字ハ堅を上右(うじうべ)、
とあれば父字は方より母字は方(うそく)えの字試うちを上右(うじうべ)、
又けりノ堅ハ父字堅のうちを上右(うじうべ)、
とくものられハ母字がり、母字が父字の
模のうちへり、母字が父字の
うち堅へりりあてる下左(うそく)えの字試うちを上右(うじうべ)、
けりノ堅(うそく)えの字試うちを上右(うじうべ)、
るめノ堅(うそく)えの字試うちを上右(うじうべ)、
えーやーハとをとくをとく

又伊勢物語

嘗のをゆそよかとせぐふ

めくろんふきせてうへさん

けぬるわらんへめれるんこ

るめノ堅(うそく)えの字試うちを上右(うじうべ)、

えーやーハとをとくをとく

又ニモウ一トナハ

三

程れあへやもーもとふやれバクモウの筋そろひもゆけ

か あ
い う
え れ
れ え
れ え
れ え

五
二
三

さ

ふり。
又
人

あ	た

父母机及之

六
ふ
く
く
く
く
五
く
く

されバ

やま

六
八

ら
ら
れ

上をアラセ

百四上

1

假名ウヘハナホモニテノシ

書肆

京都三條通舛屋町

出雲

寺文治郎

大坂心齋橋南二丁目

敦賀

屋九兵衛

江戸日本橋通壹丁目

須原

屋茂兵衛

同本石町十軒店

英

大助

同中橋廣小路

西

宮彌兵衛

同芝神明前

岡

田屋嘉七

